



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.211

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2023年6月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：入江仁士)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Tel: 043-290-3832/Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

マルチプラットフォーム合成開口レーダ、国際イノベーター賞受賞

2023年5月20日にインドネシア・ジャカルタにてインドネシア政府国家研究革新評議会(DRIN)とインドネシア学術会議(AIPI)の主催で、World Creativity & Innovation Day 2023 学会が開催されました。この学会で2023年度国際イノベーター賞の受賞者7名が発表され、当センターのヨサファット教授が受賞者の1名でした。ヨサファット教授が2005年から開発された小型衛星、航空機、無人航空機、成層圏プラットフォーム搭載用のマルチバンド(L、C、Xバンド)円偏波合成開口レーダの研究成果が評価対象になりました。ヨサファット研究室の研究内容詳細はウェブサイトからご参照いただけます。



表紙を飾る教授

こちらからどうぞ <http://www.cr.chiba-u.jp/lab/Josaphat-laboratory/researches.htm>



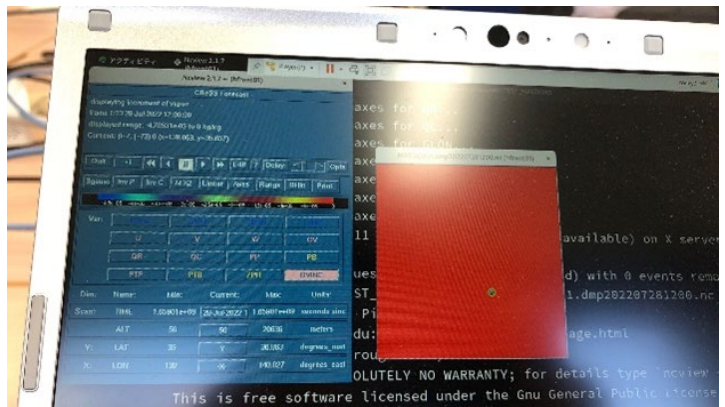
CReSS を用いたデータ同化の研修に参加して

5月30、31日につくば市にある防災科学技術研究所において、CReSS*を用いたデータ同化の研修に参加してきました。名古屋大学院の方々とともに2日間、CReSSの概要や実行方法について学びを深めました。

今回の研修で私が目指したのは、CReSSについての知識を深め、自分自身でデータ同化を実行できるようになるということです。入江研究室で取得している多軸差分吸収分光法(MAX-DOAS)の有用性を示すためには、MAX-DOASのデータを実際にデータ同化モデルに適用し、その結果がどれほど改善するかを示す必要があります。そのため、CReSSの習得は必要不可欠です。

今回の研修を通じて、CReSS についての理解を深めたり、実行するための細かな設定などについて知ることができました。更に、他の研究室の方とも議論をすることで、自らが目指していくべき研究を明確にすることができました。今後は今回学んだ CReSS を用いて、更に研究を進めていきます。

入江研究室/理学部 4 年 溝渕 隼也



*CReSS : Cloud Resolving Storm Simulator (雲解像モデル)

受賞報告：日本リモートセンシング学会 優秀論文発表賞

市井研究室の山本雄平特任助教が、日本リモートセンシング学会で優秀論文発表賞を受賞しました。昨年度の第 73 回学術講演会で発表した「ひまわり 8 号データを用いた地表面温度推定における不確実性の評価」に対して授与されました。授与式は令和 5 年 6 月 1 日（木）に日本大学生産工学部津田沼校舎（第 74 回（令和 5 年度春季）学術講演会の場において）で行われました。

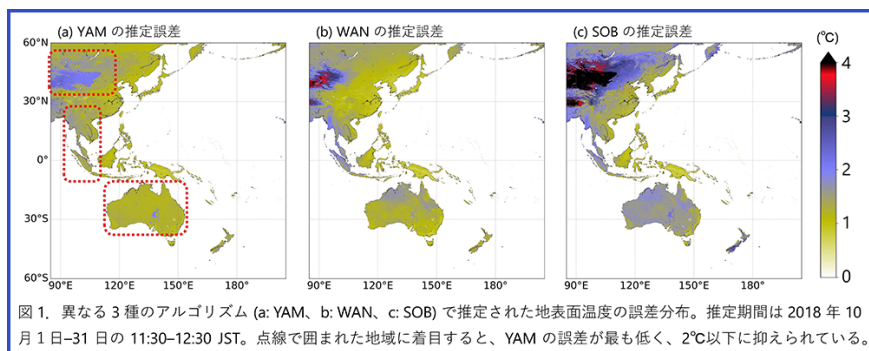


この研究では、気象衛星ひまわり 8 号から地表面温度を推定する際にどの推定アルゴリズムが最適であるかを、数値モデルや地上観測、国際宇宙ステーション観測のデータを用いた比較検証によって明らかにしました。研究の詳細については、CERES ニュースリリースの解説記事 (<https://ceres.chiba-u.jp/3609/>) をご覧ください。

今回の成果は、共著者の方々や研究室メンバーの協力があつたおかげで達成できたものです。今後は、ひまわり地表面温度データを応用した研究に取り組み、地球環境の理解にさらなる貢献を目指していきます。

■ ひまわり 8 号の地表面温度推定システムをアップデート
～より正確な「地球の熱症状」の診断が可能に～

(山本雄平)



ニュースリリースより抜粋